

南蛮胴具足着用

織田信長 武将像

天下布武



戦国史に屹立する、不世出の天才 「織田信長像」(全高45センチに及ぶ大型美術作品)



【造形制作】

株式会社 謙信 造形工房

立体造形のプロとして1997年設立。創業より考証に基づく忠実な戦国・立体造形作品の制作で高い評価を得る。武将像の他、創作鎧や兜、仏像など総合的な日本の美術を手掛け、世界へ発信している。

日本の安土桃山時代は、「戦い」と「茶の湯」や「障壁画」など崇高な芸術とが両立した稀有な時代である。信長は芸術また宗教の庇護者であり、ヨーロッパの大帝にも匹敵する存在であった。立体彫刻に歴史の浅い日本において、後世へ残すべき優れた武将彫刻として信長をつくり上げたかった。再現するには史実や、甲冑などの資料的裏付けをとり、存在したであろう確かな信長の姿を再現することを第一としている。

【天下布武】

時代の変革期には天才が現れる。

まさに信長は戦国に突如登場した革命者であった。小国尾張に生を受け、周囲を敵に囲まれて育った。だからこそ他のだれもが無し得なかつた因習を打ち破り、日本統一という具体像を人々の目の前に指し示すことができた。

織田信長の登場は、日本史上の大きな転換点であり、その強力なリーダーシップは、四百年以上時を経てなお、現代人を惹き付けてやまない。変化が激しい現代を変革の時代と呼ぶならば、まさしく信長こそ、今求められるリーダー像といえるのではないか。軍師を持たず、自らを貫き通し稲妻のように生きた信長の思想や意志までも感じられるような彫刻作品をつくる、本作はそのような思いから15年にしてたどり付いた、頂点の作品である。



【南蛮胴具足着用】

南蛮胴具足とは、戦国期にポルトガルなどによって献上された貴重な甲冑のこと。板金技術に優れたこの鎧は、鉄砲に対する防御機能に優れていた。宣教師を最初に保護した「信長」こそが、この南蛮鎧を身に着けたはじめての人物ではないだろうか。また、信長ほどの武将よりも早く、圧倒的多数の火縄銃を有し、戦国の戦い方を変えた。鉄砲によって天下統一を目前とした。火縄銃を掲げる、この姿そのものが、合理的で革新を好む、信長そのものを象徴している。

【火縄銃】

からくり構造にいたるまで
精巧に再現した



【監修協力】 甲冑師・三浦公法氏

(社)日本甲冑武具保存協会
(元)専務理事／(現)顧問



本像を制作するため、当世具足の第一人者で甲冑師の三浦氏に1/4鎧を、本物の鎧と全く同素材を用いて制作していただき、造形の基本とした。信長の現存資料は少なく、徳川家康が所有した南蛮胴具足等を参考資料とし、極めて精巧な鎧の復元に努めた。信長が南蛮胴具足を身に着けたことは文献にも記録が残されている。

【第六天魔王】

生殺与奪、全ての権限を有した戦国大名は、現代人とは全く異なる絶対者として君臨した。手にした権限が絶大であったがために、臣下にとつて神にも近い存在だった。

●南蛮兜に面頬を装着
厚い一枚板より板金でつくりだされる継ぎ目のない南蛮兜は、戦国期の日本の甲冑技術ではつくり出すことが出来な高度なものだった。



本作は面頬の奥に潜む「信長」の表情まで精巧につくりあげている。近寄りたいたい存在感を演出するため、あえて面頬着用の像としている。(兜はお取り外しできません。)



一度生を得て、
滅せぬ者のあるべきか

幸若舞 「敦盛」

人間五十年、

下天の内をくらぶれば

夢幻のごとくなり



限定制作50体
謙信工房手作り



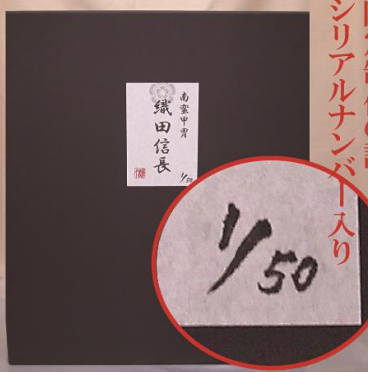
▲鎖かたびらの細部まで、精巧に再現されている
甲冑が正確に造られていることはもとより、造形細部の完成度まで高いクオリティを備えている。鉄砲の登場により、甲冑はよりからだにそったつくりとなり、動きやすさが重視されている。鉄・布・革など、甲冑各部の素材感も忠実に再現している。

【専用化粧箱入り】

工房にて少数手づくりされる信長像化粧箱には、限定制作のシリアル番号入り。かつして大量生産できない、限定制作であることを示している。複雑で精度を要求される造形は制作過程が膨大になる。鎧の質感を出すための磨き上げ、紐の結び上げなど一作にかかる制作時間はおよそ、30時間にもおよぶ。

●保管に最適な専用化粧箱付属

限定制作の証、
シリアルナンバー入り



謙信工房の巧み

【木片練り込み技法】

木片練り込み技法により、漆のような、味わい深い色と質感をつくり出します。素材に特殊な配合で木材を混合することで、彩色だけでは出すことができない、鉄錆地のような自然で深い、濃淡ある色を生み出します。

さらに磨きを重ねることで、鏝らしい光沢が生まれます。造形、組上げ、仕上げまで全工程に職人の手仕事が入ります。手間と時間を惜しまずつくり上げることが、作品に奥行きを与えます。



▲木片練り込み：鎧部分に用いられる特殊技法

自然で濃淡ある深い色を出すために、素材に木が用いられている。ポリストーンはヤスリを繰り返し掛けることで、金属の質感再現ができる。またゴールド色の装飾は、職人がひとつひとつ手彩色で描き入れている。

【マント・胡粉仕上げ】

マントは、布らしいマントな質感とするため、表面を胡粉仕上げとしております。それにより風になびく布の表情がよりゆたかに再現されます。【胡粉】は、日本の伝統素材で蛤の殻を砕き、にかわ粉で溶いたもの。日本人形の製作にも伝統的に用いられる素材です。



▲マントの彩色はあえて控え目に上品な紫に。何十年という長い鑑賞にも、見飽きることなく、お部屋の装飾として違和感を感じさせない仕上がりです。

【彫刻素材／人工石】

*ポリストーン(合成樹脂/石粉)

人工石とも呼ばれるポリストーンは、欧米で美術品・室内装飾品によく用いられる素材です。重さや質感は石に似ており堅牢で、熱変形に強く、長期にわたり保存性・形状維持に優れています。当社では、流動性の高い最高品質の素材を用いて制作を行っております。それにより、鎧の細部の造形まで、精巧な再現が可能となります。



▲最高品質の素材を使用
およそ30もの型に流し込んで成型し、すべて磨き形を整え彩色し、寸分の狂いなく組み上げる特殊技能。

南蛮胴具足着用 織田信長武将像

販売価格 200,000円(税別) 【限定制作50体】

商品番号 SA-007

- サイズ：約幅21×奥33×高45cm(台座含む) / 火縄銃 長さ 約43.5cm
- 素材：ポリストーン(合成樹脂、石粉)、木材、金属等
- 付属品：「南蛮甲冑 織田信長公」立札、専用化粧箱
- 製造国：中国 * 謙信工房 / ●本体 重量：約4kg

* 謙信の直営、高品質に特化した少人数のものづくり工房。日本で制作した精巧な原型をもとに、直接指導・監修し、型抜きから仕上げまで、すべてを工房内で行い、完成させます。日本国内では不可能となった手仕事を駆使した少量限定制作を行っております。

【注意】

* 本作品は、屋内展示用作品としてお作りしております。作品保管観点から、屋外に展示しないでください。また、直射日光のあたる場所、強い光線を放つライトの下は避け、展示してください。長期展示されない場合は、専用化粧箱の中にて保管してください。



【別売品】信長専用ケース

【別売品】商品番号SA-008
信長専用ケース : 50,000円(税別)
幅280×奥380×高500mm 日本製